

平成27年度一般会計

討 論

一般会計予算(原案)には、国民健康保険特別会計に赤字補てん分として5000万円の繰り出し金が計上されている。

原案に対し修正案は、5000万円を全額取りやめるものだが、その他の視点での討論もあった。

原案に賛成

【杉谷議員】

県内19市町村のうち11市町村が、一般会計から法定外繰り出しをしている。この予算を否決することは、国保加入者の負担をさらに増やす方向に賛成することだ。

【岡田議員】

国保加入者は年齢構成が高く、医療費水準が非常に高いなど、構造的な問題を抱えている。赤字も行政だけの責任とは決して言えない。

法定外繰り出しは国民健康保険事業への支援だと考えるべきだ。

【吉原議員】

国保加入者は、年金受給者など、医療費がかさむ人たちが構成されている。原案を通さないということになれば、行政はこれを民意として国保税を増額する予算立てをすることができない。

【大杖議員】

新年度予算原案を否決することは、町民の福祉サービスなど多くの事業を一時的だがストップさせる可能性もある。それは、町民から負託を受けた議員として到底考えられない。

【西山議員】

合併以来10年間の取り組みが土台だ。未来・次世代につなげる町づくりを進め、町民福祉の増進が目的。議員は謙虚で感謝が必要で、全国から選んでもらえる大山町を建設する責任がある。

【岩井議員】

こういう事態が起きたときに、逃げるのではなく、国保加入者のために一般会計から繰り出すということは、行政がやっていかねければならないことだ。行政が手を差しのべるのは、今だ。

【大原議員】

国保加入者には、自営業者をはじめ一次産業に従事している人が多い。長いデフレ下において、皆が厳しい環境下にある。この時期に4年連続で国保税を上げることがよくない。

修正案に賛成

【野口昌議員】

国保会計は平成21年度からずっと単年度赤字だった。それを基金繰り入れなどでやってきていた。修正案は5000万円の法定外の支出だけを止める会計原則にもとづいたものである。

【米本議員】

国保加入者は町民の約3分の1である。法定外の繰り出しに皆さんの理解がえられるのか。また、各保険組合や共済組合、協会けんぽなどとの整合性はどうか。町民の議論になっていない。

【加藤議員】

昨年、負担は受益者にしてもらうのが本町の考え方だと説明を受けた。方針転換するには説明不足なうえ、負担を先延ばしにするだけだ。法定外繰り出しで、少子化対策などがおろそかになる。

【遠藤議員】

今年国保会計基金が7000万円あつて、その上に5000万円の繰り出しが必要とのことだが、来年・再来年はどうなるのか説明されていない。今こそ町民に国保会計の実態を説明して、一緒に考えていく時期ではないか。

【近藤議員】

今の国保税額では、一人当たり平均35万円の医療サービスをまかなうために、年間で1億2000万円が不足する。誰もが自分の問題と考

え、負担すべきものは負担する。そういう覚悟と責任が必要だ。

【西尾議員】

この当初予算は分科会で3対1で修正案の提出を決めたものだ。原案は一般会計から国保会計に初めて繰り出すものだが、今後も繰り出し額の増額が見込まれる。もっとしっかりとした議論が必要である。

原案と修正案に反対

【大森議員】

一般会計から国保会計への5000万円の法定外繰り出しは、最善の方策として評価する。

しかし、2002年に同和地区に対する国の法律は完了し、特別対策は終了した。行政や学校がいつまでも特別扱いでは、問題は解決しない。

【岡岡議員】

修正案は国保加入者の負担が増えることになるので反対だ。

一般会計と特別会計の歳入歳出が区分されていないのは経理上問題がある。

同和対策の進学奨励交付金は一般対策に移すべきだ。